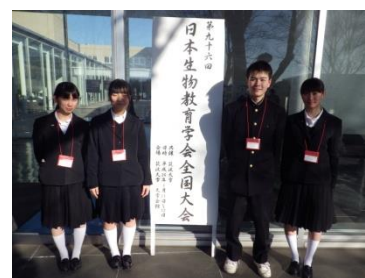


日本生物教育学会 2014 つくば 第 96 回全国大会 高校生ポスター発表(生物部・地学部) (平成 26 年 1 月 11 日～12 日 於筑波大学・大学会館)

主催：日本生物教育学会

共催：筑波大学

後援：文部科学省、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会



<参加目的>

RSⅡや生物部・地学部での課題研究の成果を外部で発表することで、専門家の意見を聞くことができ、研究の方向性を再確認できる。また、本学会は教育関係者を対象とした学会であるため、指導教諭のスキルアップにも役立つことが見込まれる。本校 SSH 運営指導委員長推薦の学会でもあり、本校 SSH 発展のための一助とすることを目的として参加した。

<発表テーマ>

「植生・チョウ・トンボから見た里山の環境—宇和島市宮下(大池)の生物調査を通じて—」

(生物部 2 年 山内陽菜 藤岡実里)

「四国カルスト総合調査 2013—四国西予ジオパークとの連携—」

(生物部 2 年 富田純矢 地学部 2 年 山口桃子)

<成果>

生態系に関する課題研究を行っている高校は少なく、学会参加者の多くの注目を集めました。SSH 事業において「リージョナルサイエンス」に取り組んでいる本校のアイデンティティを再認識することができました。当日は発表時間開始前から質疑が相次ぎ、生徒たちは一生懸命応答していました。生徒の感想には、「自分たちの思いつかなかった考察や、今後の方向性について意見をいただき、視野が広がった。」という声が多かったです。生態系に関する研究は長期的にデータを蓄積していく必要があるため、今後も後輩に受け継いでいくことが大切になります。

研究したことを外部に発信することは、実はその分自分たちにかえってくるということに生徒たちも気付いたのではないのでしょうか。そのような意味で大変有意義な発表会でした。

